

国宝

久能山東照宮

久能山東照宮

〒422-8011 静岡市駿河区根古屋 390
TEL.054-237-2438 FAX.054-237-9456

●交通 / しずてつジャストライン
静岡日本平線「日本平」バス下車 ▶ ロープウェイで5分

<http://www.toshogu.or.jp>

ようこそ、静岡の聖地「久能山」へ

東照公御遺訓

人の一生は重荷を負て遠き道をゆくが如し、急ぐべからず。不自由を常と思へば不足なし。心にぞみおこらば、困窮したる時を思ひ出すべし。堪忍は無事長久の基。怒は敵と思へ。勝つ事ばかり知りて負くる事を知らざれば害其の身に至る。己を責めて人をせむるな。及ばざるは過ぎたるよりまさり。

慶長八年正月十五日 家康(花押)

人はただ身の程を知れ草の葉の

露も重きは落つるものかな

宮重の川歴とし

久能山の歴史

史跡久能山は日本平と共に太古海底の隆起によって出来たもので、長い年月の間に浸蝕作用等のため堅い部分のみ残り、現在のように孤立した山となったが昔は日本平と続いていた。高さ二七〇m前面は眼下に駿河湾を見下し、東は近くに伊豆半島を西は遙かに御前崎を一望できる素晴らしい風景である。久能山は推古天皇の時(西紀六〇〇年頃)久能忠仁ただひとが始めて山を開き一寺を建て観音菩薩を安置し、補陀落山久能寺と称したとあり、久能山の名称もこれから起ったと思われる。

其後、僧行基ぎょうきを始め多くの名僧等が相次いで来たり住み建物の数三三〇坊も建ち並んで非常に隆盛であったが、嘉祿年間(一二二五年頃)山麓の失火によって類焼し昔の面影はなくなったのである。永禄十一年(一五六八年)武田信玄は当山が要害であることを聞き、久能寺を近くの北矢部(清水区今の鉄舟寺)に移し山上に城砦じやうがいを設け久能城と称した。天正十年(一五八二年)武田氏亡びて駿河の国一帯が徳川氏の領有するところとなったので久能山も自然徳川氏のものとなった。

元和二年(一六一六年)四月十七日家康公の薨後、久能城を廃止し、東照宮を建立現在に至っている。

久能山東照宮の建造物

○建物

二代將軍秀忠公の命により宰相頼將卿さしやうよりまさきやう(後の紀州家の祖頼宣卿)が総奉行となり中井大和守正清を大工棟梁として元和二年五月着工、同三年十二月に至る僅か一年七ヶ月と云う短期間に造営されたもので、権現造、総漆塗、極彩色の社殿は日光東照宮より十九年前に造られ、日光と比較すると地味であるが、彫刻、模様、組物等に桃山時代の技法をも取り入れられた江戸初期の代表的建物として平成二十二年十二月二十四日国宝に指定された。また、神饌所も同日付で重要文化財に追加指定された。尚神廟、日枝神社、神庫、神楽殿、鼓楼、神廐、楼門等の諸建造物も昭和三十年重要文化財に指定されている。

○境内

面積約六五、〇〇〇平方メートル(二一、〇〇〇余坪)高さ海拔二七〇m、久能山全域は歴史的価値が高いところから昭和三十四年六月に国の史跡に指定されている。

御社殿(権現造=国宝)



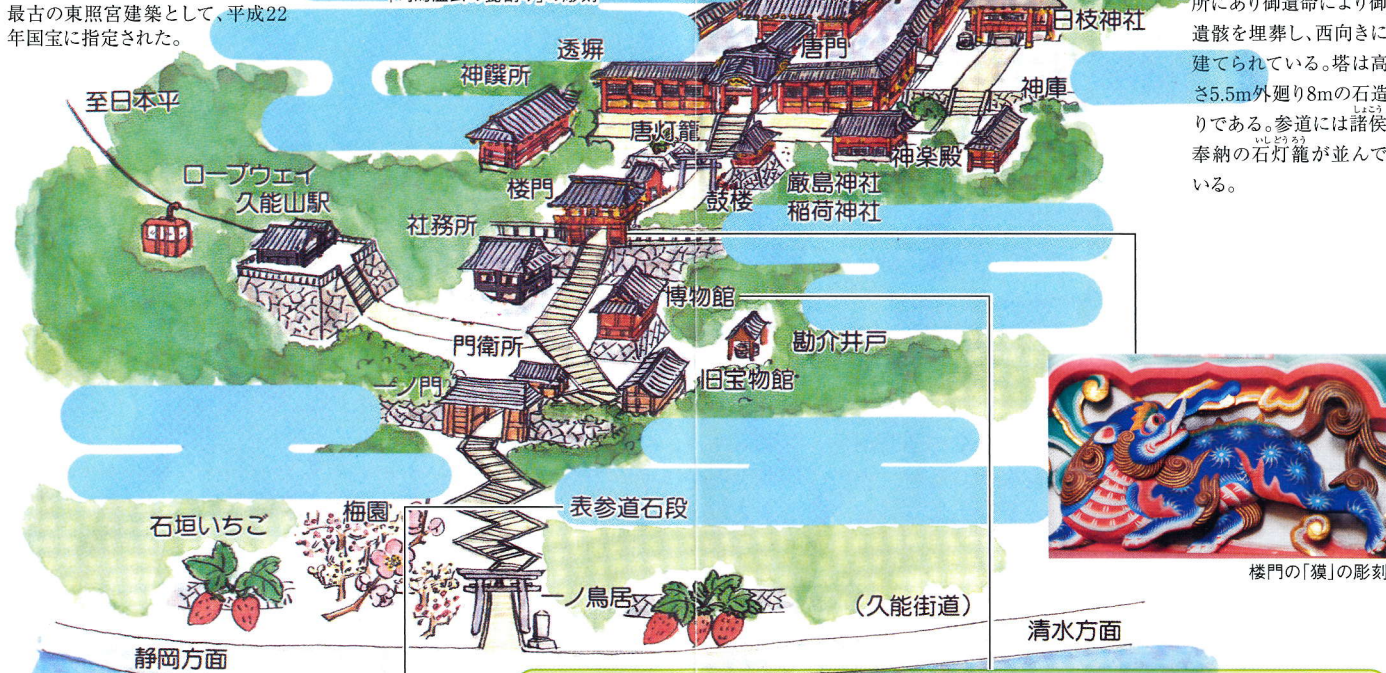
久能山東照宮 境内案内

御社殿

元和3年(1617年)建立。本殿、石の間、拝殿の三棟からなる、いわゆる権現造の形式をもつ複合社殿で、江戸幕府大工棟梁中井大和守正清の代表的な遺構のひとつである。江戸時代を通じて権現造社殿が全国的に普及する契機となった最古の東照宮建築として、平成22年国宝に指定された。



「司馬温公の魏割り」の彫刻



神廟(家康公のお墓所)

神廟

御本殿の裏手約50mの所にあり御遺命により御遺骸を埋葬し、西向きに建てられている。塔は高さ5.5m外廻り8mの石造りである。参道には諸侯奉納の石灯笼が並んでいる。



楼門の「狼」の彫刻



表参道の石段

久能山東照宮博物館

収蔵する資料は東照宮伝世の宝物で、500件・2,000余点(国宝1件、重文刀剣13件、重文甲冑3件、重文徳川家康関係資料72種)を数える。その特色は、徳川家康公の日常品がまとまっていること、徳川歴代將軍の武器・武具がそろっていることで、歴史博物館として国の内外より注目されている。



国宝 太刀
(銘 真恒)



洋時計
(家康公使用)

慶長十六年(一六一一)にスペイン国王より海難救助の謝礼として徳川家康公に贈られた時計で、ゼンマイ仕掛けの時打付時計として現存する日本最古のものである。



金陀美具足
(家康公所用)



東照大権現像

久能山東照宮の由来

御祭神 ○贈正一位 徳川家康公

相殿 あいのとの 贈正一位 豊臣秀吉公

贈正一位 織田信長公

御例祭 ○四月十七日

御創建 ○家康公は天文十一年(一五四二年)十二月二十六日三河国岡崎城(愛知県岡崎市)に生まれ、あらゆる艱難辛苦かんなんしんくの末、戦国時代に終止符を打ち江戸時代二百六十年に亘る、世界に其の比を見ない長期平和の礎を打ち立てられ、学問、産業、文化の基礎を確立し、晩年は駿府城に隠居されたが元和二年(一六一六年)四月十七日、七十五歳で薨去こうきょ、御遺命によりその夜当山に葬られた。その後東照神君として平和、開運、学問、厄除やくよけの神として崇められ、全国東照宮の創祀・根本大社として全国から幅の広い崇敬を受けている。